



三笠だより

舞鶴市立三笠小学校
学校だより 10月号
令和8年10月1日発行

一粒の種から

春に蒔いた花や野菜の種が芽を出し、花を咲かせ、実を結び、再び種となる季節を迎えました。この半年間、子どもたちは収穫の喜びを味わったり、花や実を使って遊んだりしながら、自然の豊かさや生命のつながりを実感しています。

たんぽぽ学級では、畑で収穫した野菜を使ってパーティーを開いたり、野菜を販売した収益の使い道について話し合ったりしています。冬野菜の種を買うのか、次のパーティーに活用するのか。さらに、野菜を買ってくださった先生方にインタビューを行い、冬野菜づくりへの意欲を高めています。

「毎日水やりを続け、たんぽぽマーケットでたくさん野菜を買ってもらえてうれしかった。」「食べた人から『おいしい』と言ってもらえてうれしかった。次も枯らさず、おいしい野菜を育てたい。」そんな子どもたちの言葉からは、人との関わりの中で新たな意欲が芽生えている様子が伝わってきます。

1年生のアサガオは、この時季になっても夏の終わりを惜しむかのように花を咲かせています。夏休み中も、ご家庭の協力を得ながら忘れずに水やりを続けてきたのでしょう。アサガオだけでなく、フウセンカズラ、ヒマワリ、オシロイバナ、ワタ、マリーゴールドなど、さまざまな植物を育ててきた子どもたちは、今、その種に興味津々です。種の形や色を調べたり、一粒の種から何粒の種ができたのかを数えたりしています。マリーゴールドの種がどこにできているのか探すのには苦労しましたが、見つけた子どもは「皮をめくると、かにかまやさけるチーズみたいに種が取れた」と発見の喜びを伝えてくれました。今、子どもたちは集めた種をどうしたいのかを話し合っています。来年につなげるのか、誰かにプレゼントするのか、それとも遊びに活かすのか。大切なのは、「どうしたいか」を子どもたち自身が考えることです。その自由な発想からどんな遊びや工夫が生まれるのか、今から楽しみでなりません。

2年生は先日、京都食育先生のご指導のもと、佐波賀だいこんの種蒔きを行いました。小さな丸い種を一人五粒ずつ受け取り、大切そうに畑へ蒔きました。すると、一週間ほどでかわいらしい芽が顔を出しました。昼休みに畑の様子を見に来た子どもたちは、自分たちが蒔いた種から芽が出ていることを大変喜び、丁寧に水やりをしていました。佐波賀だいこんは、市内でもわずか数軒の農家しか栽培していない、舞鶴の貴重な伝統野菜です。子どもたちは収穫の日を楽しみにしながら、草取りや虫取りを行い、大切に育てていくことでしょう。

種は、次の命の始まりです。一粒の種は、小さくても大きな力を秘めています。花を咲かせ、実を結び、また新しい命へとつながっていくように、子どもたちの心にもこの半年で多くの気づきや喜び、そして優しさの種がまかれました。一粒の種に宿る大きな力に気が付きながら、子どもたちは植物とともに成長し、命をつなぐ営みを学んでいます。

校長 高峰 真実 教職員一同

令和8年度 全国学力・学習状況調査について（小6）結果について

国語の結果は、全国正答率を上回る結果でした。特に基本的な漢字の読み書きや文章の読み取りなど、反復練習等を積み上げてきた知識や技能を解く問題がよくできていました。しかし、読み手や聞き手に伝わりやすいようにどのように文章が構成されているかを読み取ったり、構成を工夫したりする問題、目的に応じて集めた情報を読み取ったりする問題に課題が見られました。今後は、相手意識を持って文章構成を工夫し伝え合う活動や、学習活動や目的に応じて情報を整理していく経験を積み上げます。

算数の結果は、全国正答率と同等の結果でした。図形や計算などの知識や技能を解く問題はよくできていましたが、複数の資料を組み合わせ必要な情報を読み取る問題や自分の思いを分かりやすく整理して伝える問題に課題が見られました。身の回りの身近な事象と学習内容を結びつけながら探究的に学習理解を深めたり、問題に出てくる数量関係を図で整理したり式を言葉で説明したりすることを習慣化し、理解を深めていきます。